テーマ	ビジネス・コミュニケーションおよび国際商取引の理論と実務		
担当者	杉山　晴信	キーワード	ビジネス・コミュニケーション、国際商取引、ESP 教育
テキスト	① 配布プリント ② 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）		

演習の内容等

1. はじめに

皆さんは“ESP”という略号をご存じですか？ ESP とは“English for Specific Purposes”の略で、「特定の専門分野に使用されることを目的とした英語」です。たとえば、医療系の大学や学部で学習されている医学英語（English for Medical Purposes; EMP）は ESP の一例です。現在、日本の大学英語教育において、ESP 教育が脚光を浴びています。思うに、グローバリゼーションの急速な進展に伴い、単に英語「を」学んで英語「が」得意な人ではなく、英語「で」仕事ができる人材の育成が急務とされているからでしょう。つまり、今の時代は実学と即戦力が重視され、特定の職業領域における業務を英語で遂行・促進できる実力が問われているのです。

2. ビジネス・コミュニケーションとは

私の専門分野であり、杉山ゼミのテーマでもある「（英語）ビジネス・コミュニケーション」は、その前身を「商業英語」あるいは「貿易英語」といい、国際商取引の円滑な遂行・促進を目的として、古くから研究され、指導されてきた ESP です。前記の EMP は医学の知識がなければ成り立たないように、およそ ESP である以上、英語の運用能力に加えて当該専門分野における実務知識が不可欠です。ビジネス・コミュニケーションの学習者には、国際商取引に関係する広範囲な知識（貿易実務、通信実務、文書実務、企業財務、国際法務、専門用語等）が絶対に必要であり、これらの知識を前提として、次のような業務を遂行することが守備範囲といえます。

① 国際商取引の遂行・促進のために、当事者間で往復されるレター、FAX、e-mail などによるビジネス通信文（Business Correspondence）の作成と読解

② 国際商取引の遂行・促進のための法律文書（レター・オブ・インテント、覚書、契約書など）の作成、読解および履行

③ 国際商取引の対象製品に関する技術文書（取扱説明書、仕様書、保証書など）や促進文書（広告、カタログなど）の作成と読解

④ 自社の（英文）財務諸表（Financial Statements; F/S）の作成、および他社の財務諸表の読解と分析

⑤ 貿易取引（国際物品売買）および貿易付帯取引（国際輸送、外国為替、貨物保険等）に関連する各種書類、特に船積書類（Shipping Documents; S/D）の作成、読解および履行

⑥ 国際商取引および関連活動を扱った論文、レポート、出版物などの作成と読解

⑦ その他、上記各号に関連する実務全般

3. 学習目標と学習内容

杉山ゼミでは、上記のように、国際商取引の遂行・促進を目的とする ESP 教育を実践することによって、企業実務に直結した実用的な知識を修得させ、ビジネス・マインド（商取引の感覚）を早期に涵養することを目標とします。かくして、科学的な社会認識と公民的資質を備えた有為な人材として、卒業後にそれぞれの進路において確かな活躍の場を得られるような学生の育成に努力しています。

具体的な学習内容については、既述のように、ESP に実務知識が不可欠であることから、新年度を待たずに 3 月に 2 泊 3 日の春合宿を行い、貿易実務の基礎知識（貿易一巡の手続き、制度、法令など）を徹底的に集中して学習します。その後、春学期には、「相当程度に高度な考案を要するビジネス通信文」、すなわち貿易取引の各段階で非日常的な事態に遭遇した場合の通信文や、企業トップによる国際契約の提案や交渉の通信文を作成し読解する訓練を行います。夏休み中の 9 月にも 2 泊 3 日の秋合宿を行い、実在の企業の財務諸表（F/S）を用いて、F/S の読み方と基礎的な財務分析を勉強するのが慣例になっています（これは、後述する「就活」にも役立ちます）。秋学期には、実在の Business Matching Database から抽出した国際商取引の「引き合い案件」を活用して、各種国際契約（長期売買契約、販売店契約、代理店契約、ライセンス契約、OEM 契約、合弁契約など）の類型ごとに、交渉過程における合意事項を記録したレター・オブ・インテント（Letter of Intent; LOI）を作成し読解する訓練を行います。

以上のように、学習内容は高度で専門的ですが、後述の選考試験を通過できる基礎学力さえあれば、懇切丁寧に指導しますので特別な予備知識は必要ありません。ただし、教室外でも相当量の学習が必要になることは十分に覚悟しておいて下さい。なお、私が担当する「英語ビジネス・コミュニケーション」（木3・木4）および「英語ビジネス・コミュニケーション実務」（金1）の授業を併せて履修すると、学習効果がいっそう上がると思います。

4. 学習の進め方と評価

教室でも合宿でも、少人数の班に分け、班ごとに課題のテーマを事前に詳しくリサーチしてレジュメを用意し、プレゼンテーション(プレゼン)を行うという形をとります。特に春学期と秋学期は、ある班が設定した課題に基づいて、他の班が当該のビジネス通信文やレター・オブ・インテントを作成し、その工夫したポイントなどをプレゼンした後で活発に質疑応答や討論を行います。このようにして、知識や情報を全員が共有できるように鋭意努力しています。なお、レジュメはプレゼン前に Yahoo! Mail にアップし、各人がプリントアウトして持参することになっています。

評価に関しては、定期試験は行わず、出席状況、ゼミ内の役職(後述)を通しての貢献度、上記のリサーチ、レジュメ作成、プレゼン、討論等の成果などを総合的に勘案して決定します。

5. サブゼミについて

参加は強制ではありませんが、杉山ゼミの特色の一つとして、金曜 2 限の正課(本ゼミ)以外に、ゼミ生主体のサブゼミを毎週金曜 4 限に行っています。下記のようなメニューがあります。

① 時事クイズ: その日の担当者が時事的なニュースを題材としたクイズを出題する

② 読書会: その日の担当者が、最近読んで感銘を受けた本やテーマについて、レジュメを用意して報告し、その後で質疑応答や意見交換を行う

③ 「就活」(就職活動)のためのスキル・トレーニング: 就活の体験談紹介、模擬面接、グルディス(グループ・ディスカッション)、ブレスト(ブレイン・ストーミング)など

④ 商品企画や事業立案のプレゼンテーション: 公募企業に実際に応募することもある

6. 検定試験や資格試験について

杉山ゼミのテーマであるビジネス・コミュニケーションや貿易実務には、関連する検定や資格として、貿易実務検定試験(日本貿易実務検定協会主催)、日商ビジネス英語検定試験(日本商工会議所主催)、通関士試験(国家試験)などがあります。また、ゼミのテーマに直接関係なくても、実務的な検定試験や資格試験に関心のある学生諸君や受験を希望する学生諸君を積極的に応援しており、適切なアドバイスや相談を行っています。ちなみに、卒業生の中には、通関士、税理士、司法書士などのライセンスを取得して活躍している人が少なくありません。また、2010 年 6 月に開催された第 4 回「日経 TEST」(日経経済知力テスト;Test of Economic Sense and Thinking)の学生団体対抗戦で、杉山ゼミはゼ

ミ部門で第 4 位となり、個人成績でも 227 人中第 2 位が杉山ゼミの学生でした。こうした快挙により、日本経済新聞社から団体表彰および個人表彰を受け、獨協大学ニュース 2010 年 10 月号でも紹介されました。

7. その他のゼミの特色

杉山ゼミは人間関係が濃厚で温かく、雰囲気がとてもアットホームなゼミです。ゼミ生は皆、ゼミでの役職に就いており、責任と自覚をもって組織運営の一翼を担っています。また、毎回の授業の冒頭で「ホウレンソウ」(報告・連絡・相談)を行い、あるいはメーリング・リストを活用することによって、迅速かつ正確に情報が伝達され共有されます。紙面の都合もありますので、より詳しくは 9 月 30 日(金)と 10 月 7 日(金)の説明会でお話しします。また、大学のホームページから、杉山ゼミのページや私の教員紹介のページにアクセスしていただければ幸いです。

8. ゼミの志望者に望むこと

甚だ僭越ですが、杉山ゼミがお迎えしたい志望者像を書かせていただくと、以下のようになります。

① 何事にも積極的に取り組むことのできる情熱と、物事を客観的・論理的に判断できる冷静さを併もっている人

② 高校時代に、大学の入試科目以外の教科もおろそかにせずに勉強し、バランスのよい基礎学力が身についている人

③ 社会問題・時事問題に対する興味関心が旺盛で、つねにニュースや新聞の情報に接しようと努めている人

④ 将来の進路選択を真剣に考え、そのための自己分析や自己啓発を怠らない人

⑤ 2 回実施する説明会のうち、少なくとも 1 回は出席すること(これは絶対条件です！)

9. 最後に

志望者が毎年定員を大幅に超えています。その場合、10 月 21 日(金)に選考試験を行い、高卒程度の基礎学力、一般教養、社会問題・時事問題に対する知識や関心を筆記試験で判定し、高得点者から合格者を決定します。説明会に出席して選考試験を通過しない限り、原則としてゼミの履修を許可いたしません。

ゼミは単なる時間割上の1コマの授業ではありません。大学生活での自分の「居場所」なのです。くれぐれも慎重に考えて選びましょう。